【著書論文目錄】（自昭和廿五年四月至同五月）

國史關係〔著書〕

日本史概觀　東京大學史學會編（B6・三七〇頁・山川出版社・二二〇圓）

日本の國ができるまで——目でみる日本史　解說、松島榮一・高橋磌一、挿畫、宮森繁（B5・一六〇頁・日本評論社・二三〇圓）

概說現代日本文學史　久松潛一監修（A5・三七八頁・塙書房・三三〇圓）

歷史の學び方—藤間生大著（B6・二八一頁・伊藤書店・二〇〇圓）

日本社會經濟史第一卷　野村乘太郎著（B5・三八四頁・ダイヤモンド社・八〇〇圓）

日本風俗史概說生活史篇　櫻井秀著（B6・一三二頁・明治書院・一〇〇圓）

日本美術史　中世近世現代篇　久野健編（B6・二七一頁・座右寶刊行會・三〇〇圓）

儒教の研究　第一　津田左右吉著（A5・頁・岩波書店・六〇〇圓）

日本古典の研究下　津田左右吉著（A5・七二八頁・岩波書店・七五〇圓）

初期封建制の構成　安田元久著（A5・二一九頁・國土社・二五〇圓）

鎖國—日本の悲劇—　和辻哲郎著（A5・七八八頁・筑摩書房・九四〇圓）

同時代史　第二卷　三宅雪嶺著（A5・五二〇頁・岩波書店・八〇〇圓

明治の政治家たち（上）　服部之總著（岩波新書・一九四頁・九〇圓）

日本人民の歷史　羽仁五郎著（岩波新書・二〇九頁・九〇圓）

暴力—日本社會のファシズム機構—戒能通孝著（B6・三〇三頁・日本評論社・二五〇圓）

古風庵回顧錄—明治大正昭和政界秘史—　若槻禮次郎自傳（B6・四九〇頁・讀賣新聞社・三〇〇圓）

大戰の解剖　荻原徹著（B6・四〇〇頁・讀賣新聞社・二五〇圓）

日本解放詩集　壺井繁治編（B6・三四六頁・飯塚書店・二五〇圓）

日本傳說名彙　柳田國男監修（A5・四六八頁・日本放送出版協會編・四五〇圓）

原敬日記—首相時代篇—（B6・四五〇頁・乾元社・三五〇圓）

日本史資料集　上卷　豊田武監修　歷史教育研究會編（A5・一九〇頁・蘭書房・一二〇圓）

とはすがたり　全（B6・二三六頁・宮內廳書陵部・三〇〇圓）

大德寺文書之二—大日本古文書家わけ第十七—　東大史料編纂所（A5・四五〇頁・宮內廳書陵部・六〇〇圓）

圖書寮典籍解題—歷史篇—（B5・二七二頁・宮內廳書陵部・五〇〇圓）

〔雜誌論文〕

社會構成史大系　第七回（日本評論社）

古代末期の政治過程および政治形態（下）　石母田正

新日本史講座　第九回（中央公論社）

古代後期の宗教　家永三郎

封建時代前期の民衆生活　永原慶二

封建時代後期の產業經濟　兒玉幸多

封建時代後期の町人生活　坂田吉雄

金融資本　加藤俊彥

文學　一八ノ三（三月）特輯日本文學研究の發展

鷗外と洋學—外國文學理論の移植について

文獻學批判　加藤　周一
文學研究理論・その史的把握の展開　榊原　美文
文藝學派について　佐山　清
回顧と展望——古代前期文學・古代後期文學・中世文學・近代文學・近代詩歌・文獻目錄　まつしま・えいいち
同　一八ノ四（四月）
實行と藝術の問題—日本自然主義文學の提起してゐるもの—　窪川鶴次郎
鷗外と漱石における西洋の問題　川田茂一
西鶴論
西鶴と人間解放　重友　毅
西鶴の近代的解釋について　杉森　久英
西鶴と近代文學　ナカニシ・ヒロシ
同　一八ノ五（五月）
日本の文學に於ける「近代」の問題　なかの・しげはる、小田切秀雄、荒正人、近藤忠義、林基、伊豆公夫、西郷信綱
藝林　創刊號（四月）　平泉　澄
西行　小葉田　淳
對島の銀　今津　洪嶽
德山の棒・臨濟の禪　今津　洪嶽
日本紀弘仁講書と新撰姓氏錄の撰述　田中　卓
最近に於ける法隆寺研究　井上　薰
史迹と美術　二〇一（三月）
本邦出土に係る唐式鏡の新資料　梅原末治
藥師寺吉祥天畫像の再考　望月　信成
法隆寺問題特輯
法隆寺問題の回顧　梅原　末治
法隆寺壁畫を描くに要した顔料量の推定　山崎　一雄
法隆寺舍利容器に就いての若干の考察　藪田嘉一郎
八萬四千塔の一資料　景山　春樹
八世園十郎寄進の井筒　松本　栖重
同　二〇二（五月）
古代施釉窯器の新資料—備前熊山戒壇出土品其他—　梅原　末治
日本上代彫刻の展開（一）　小林太市郎
特集文書と寫經新資料
御とときあるましく候　中村　直勝
一色道範とその納經　田中　塊堂
青原寺大般若經について　田岡　香逸
史學雜誌　五九ノ三（三月）
年給制度の基礎的考察　時野谷　滋
同　五九ノ四（四月）
自由市場の成立について—中世末期東近江の農村構造—　熊田　亨
豊臣秀吉の都市政策一班　永島福太郎
史林　三三ノ二
上代地方豪族存在形態の一考察　横田健一
歴史學研究　一四五（五月）
征韓論・自由民權論・封建論（II）　遠山茂樹
幸德秋水における東方問題　岡崎　精郎
日本歴史　二三（四月）
古代村落制度の問題　岸　俊男
名田の成立について　有本　實
條里制の起源　竹内　理三
日本の産業の革命　辉西　光速
日本評論　二五ノ四（四月）
學問と思想の自由のために—福澤諭吉によせて—　大内　兵衛
同　二五ノ五（五月）
（討論）日本は民主主義の敵か味方か　ティルトマン・ホーレー　横田、小椋、都留、參加、

文藝春秋　二八ノ四（四月）
難波大助事件　今村力三郎
祖國（四月）
二外人の日本文化觀　保田與重郎
思想　三一〇（四月）
織豐政權の成立　豊田　武
隈板内閣　服部　之總
同　三一一（五月）
學問の不偏性　上原　專祿
新潮（四月）
日本歴史解禁（承前）　瀧川政次郎
東方　一三
日本人の世界觀　鈴木　大拙
一向一揆に關する諸問題　笠原　一男
文化　二ノ一（三月）
令制における日華村落成立　會我部靜雄
朝日評論（五月）
主權國家と生活共同體　長谷川如是閑
日本の小說というもの（座談）吉村正一郎
桑原武夫、吉川幸次郎、生島遼一
社會主義者の七十年(5)　山川　均
世界　五四（六月）
自由民權運動と大陸問題　遠山　茂樹
國語と國文學　二七ノ五（五月）
人麿歌集の用字法と人麿的なものとの關聯について　高木市之助
榮花物語の諸本とその系統に關する臆說　松村　博司
歴史評論　四ノ四（四月）特集文化史
華山における二つのもの　吉澤　忠
日本原始陸耕の諸問題　藤森　榮一
近世思想史研究のあゆみ　川崎新三郎
日本における階級社會成立の特質　藤間　生大
たれがファシズムをたすけるか　小此木眞三郎
同　四ノ五（五月）
ロシア革命―ヴェルサイユ體制―日本帝國主義　江口　朴郎
日本現代史研究の歩み　藤原　彰
十六世紀の自由都市―堺の歴史とその背景について―　原田　伴彦
紋式文化について　江坂　輝彌
說林　二ノ四（四月）
芭蕉作品の寂寥感　淺田善二郎
經濟集志　一九ノ四（三月）
氏族時代の社會と經濟　尾形　龜吉
勞働問題研究　四一（四月）
日本における失業問題の特質―農村における潛在的失業―　近藤　康男
農地改革の歴史的背景―地主制の展開と農地政策の發展―　貝細大次郎
漁業における前期的資本―漁業制度改革の一課題―　服部　一馬
經濟論叢　六五ノ二・三合併（三月）
宇治茶業農村の生態　山岡　亮一
世界評論　三八八（五月）
死刑の前　幸德　秋水
經濟評論（五月）
日本資本主義の運命　中山伊知郎　有澤廣巳　東畑精一　森田優三　都留重人
西日本史學　三（五月）
實際面より見たる歴史教育　光山　利雄
宇佐八幡の發現に關する一考察　中野幡能
哲學研究　三三ノ一一（四月）
中江藤樹の教學　下程　勇吉

東洋史關係〔著書〕

東南アジア經濟論　岡倉古志郎著（B6判二二一頁　三笠書房　一六〇圓）

儒教の研究第一　津田左右吉著（A5判五〇二頁　岩波書店　六〇〇圓）
中國家族法論　滋賀秀三著（A5判二〇〇頁　弘文堂　二五〇圓）

〔論　文〕

史學雜誌　五十九ノ三（三月）
中國天主教と傳教者の問題　矢澤　利彦
インドにおける都市國家と政治思想（下）　中村　元

史林　三十三ノ二（四月）
中國上代は封建制か都市國家か　宮崎市定

新潮　四十七ノ五（五月）
杜甫　吉川幸次郎

世界　五十三（五月）
中國半世紀の苦悶　松本　善海
インド―苦悶するナショナリズム―　岡倉古志郎
インドの政治・宗教・民衆　武田　清子
南鮮の運命を決した夏　ヒュー・ディーン
アメリカの新しいアジア政策　久野　收

說林　二ノ三（三月）
卜辭關係文獻年表　白川　靜

同　二ノ四（四月）
衣祀考　白川　靜
莊子に於ける運命觀と人間の主體性　笠原　仲二

中央公論　六十五ノ五（五月）
アジアはアジアを取返す　ラティモア

同　六十五ノ六（六月）
東南アジアに打ちこまれた三つの楔　杉　喬

一橋論叢　二十三ノ五
新中國における貨幣經濟の性格　石川　滋
中國における傳統と革命の相剋　内田直作
中共土地改革の二つの時期　村松　祐次
中共政權の承認問題　大平　善梧
中國實態調査　根岸　佶

佛教史學　二（一月）
元の上都の佛教　野上　俊靜
アティシャ教學の歷史的位置　芳村　修基
俗講と佛教　那波　利貞

文化　五（三月）
魯智深の先例　小川　環樹
祕密集タントラにおけるヂニャーナパーダ流について　羽田野伯猷

司馬遷における利己心及び富の問題　佐藤　武敏
令制より見たる日華村落の成立過程　曾我部靜雄

山形大學紀要　一（三月）
明代糧長の漕運における役割　星　斌夫
日清戰爭の中國に及ぼした影響について―
當時の中國人の時局論を中心として―　佐藤　三郎

歷史評論　五（五月）
インドシナ民族運動史　邊見　重雄

西洋史關係〔著　書〕

現代の世界（京大西洋史8）今津　晃著（A5・一六〇頁・創元社・一一五圓）
新考世界史史（下）原　隨園執筆責任（A5・一九六頁・教育タイムス社・一四〇圓）
世界史アルバム　京大西洋史研究室編（B5・一〇六頁・創元社・並製一八〇圓・特製三〇〇圓）
ギリシア民族と文化の成立　高津春繁著（A5・三二三頁・岩波書店・三三〇圓）
英國社會史（中）トレヴェリアン著　林　健太郎譯（A5・三

四八頁・山川出版社・三五〇圓）
出土史料によるギリシア史の研究　栗野頼之祐著（A5・三一八頁・岩波書・六〇〇圓）
絶對主義の構造　河野健二著（A5・二五八頁・日本評論・三八〇圓）
スミス國富論　中山伊知郎著（B6・一九七頁・岩波書店・一〇〇圓）
ダ・ヴィンチ　加茂儀一著（B6・一八五頁・岩波書店・一五〇圓）
ガリレイ　菅井準一著（B6・一五四頁・岩波書店・一二〇圓）
アメリカ思想史第三卷　思想の科學研究會編（B6・三四〇頁・日本評論社・三五〇圓）
鎖國　和辻哲郎著（A5・七八八頁・筑摩書房・九四〇圓）
タバコの文化史　加茂儀一著（A5・六四頁・岩波書店・三〇圓）
新ヒューマニズム　グルッセ著　宮本正清譯（A6・六四頁・岩波書店・三〇圓）
マックス・ウェーバー批判　上林貞治郎著（青木書店・二五〇圓）
世界資本主義の一般的危機　宮川實・神野慶一郎著（三六〇頁・大月書店・二〇〇圓）
ソヴィエト民法の理論　谷口知平著（B6・二五〇頁・東大協組出版部・三〇〇圓）
近世科學史　矢島祐利著（B6・アテネ新書・弘文堂・二〇〇圓）
ギリシアの厭世觀　岩崎　勉著・（理想社・一八〇圓）
先史世界への情熱　シュリーマン著　村田數之亮譯（B6・二一六頁・みすず書房・一六〇圓）
現代共産主義の分析　伊吹政一著（黎明書房一四〇圓）
ボルシェヴィズムの政治學的批判　ケルゼン著　矢部貞治譯（勞働文化社・一八〇圓）
アメリカ政治思想の系譜　D・W・オーヴァートン著　立大アメリカ研究所譯（B6・三〇〇頁・潮書房・二三〇圓）
西洋經濟史　堀江英一著（B6・二三〇頁三笠書房　一六〇圓）
世界史入門　西井克己著（B6・四一五頁・北隆館・三〇〇圓）

〔雜誌論文〕

史學雜誌　五九ノ三（三月）
ワイズテューマーにあらはれた後期中世獨逸農村社會の自由（下）　北村　忠夫
一つの中流階級史　藤原　浩
同　五九ノ四（四月）
發生當初の基督教に於けるユダヤ的要素について　半田　元夫
人文研究　一ノ四（二月）
モンテーニュの時代（一）　加藤　美雄
一橋論叢　二三ノ三（三月）
ソヴェート經濟統計の發展　野々村一雄
スターリン「民族問題とレーニン主義」　西澤　富夫
ア・ペ・リャーピン「社會主義から共産主義への漸次的移行について」　大崎平八郎
ア・カミンスキー　カ・オポレンスキー「先進的コルホーズにおける社會化經營の發展」　池田　顯昭
經濟論叢　六五ノ一（一月）
社會政策論爭史の一齣（一）　岸本英太郎
資本主義の自動的崩壞論の批判　松川弘三
六五ノ二三（三月）
社會政策論爭史の一齣（二・完）　岸本英太郎

思想　三一〇（四月）
自由主義、社會主義および共産主義における人權（上）　セルゲー・ヘッセン
ジョン・デューイの人と思想について　ペリー　クリコリアン
歴史學研究　一四五（五月）
第一次大戰末期のドイツ軍部　村瀬　興雄
――ヘフテン大佐の「政治的攻撃」を中心として――
マルクスとミシュレー　山上正太郎
哲學研究　三三ノ九（二月）
歴史哲學の問題（承前）　大西　友太
三三ノ十（三月）
危機神學の生成とその展開（承前）樋元和一
――近世前期フランス精神史論――
西洋史學　V（五月）
聖コズマ・エ・ダミアノ聖堂建立由來考　水川　温二
自然法則と社會法則　栗林　健
―アナクシマンドロスの宇宙像について―
チューダー朝の救貧政策（上）　植村　雅彦
ノヴァーリスとアダム・ミュラー　秋山博愛
世界　五四（六月）
理想としての民主主義　I・イードマン
地理學關係〔著書〕
人文地理學　仮塚浩治著（A5・四〇〇頁・有斐閣・三二〇圓）
VERKEHRSGEOGRAPHISCHE PROBLEME AM BEISPIEL DER EISENBAHNEN SCHLESWIG-HOLSTEIN von Ernst Hüttmann. Veröffentlichungen des Wirtschaftsgeographischen Instituts der Universität Hamburg 1949
〔雜誌論文〕
地理學評論　二三ノ一（三月）
景觀に現われた氣候的特性――わが國に於ける防風林の分布について――　矢澤　大二
關東地方周邊の海底段丘その他について　杉村　新
江戸時代輪中地域の人口　安藤万壽男
ミクロネシヤ環礁における土地所有權
[Raymond E.Murphy]　西川　治
人文地理　二ノ一（一月）
米國派の地理學　辻村　太郎
清代の馬驛路　河野　通博
散居集落の構造と成立　松本　豊壽
印旛沼落堀考　君塚　進
アメリカの人口動態　織田　武雄
溪口集落としての北摂池田町　井澤　俊雄
三方原周縁の水車の變遷　井出　榮二
ブラジルの農業　水津　一朗
石見田雲に於ける條里制　中澤　四郎
J. Gottmann の『合衆國の人文地理學的構造の變化』について　谷岡武雄
人文地理　二ノ二（五月）
北米に於けるアングロ・サクソン植民の地理的考察　帷子　二郎
農業雇傭勞働に關する地理的研究　井關弘太郎
民家雜考　藤田　元春
九州の地名　近藤　忠
寒天製造業の地理的研究　樋口　節夫
吉備高原の土地利用　稲見　悦治
地理學史の一こま　金子　厳
統計上より見たるアメリカ
水運の現況　山口平四郎

セイロンの茶業　織田　武雄
コスタ・リカのバナナ栽植
地域の移動　三上　正利
新地理四ノ二（四月）
戰後に於ける自給製鹽の推移　山鹿誠次
魏志倭人傳の里程記事に就いて　宮井義雄
九十九里濱における農業と水産業との關係
（第二報）—片貝村宗門帳の研究—内田寛一
近世村落構造の展開　淺香　幸雄
埼玉縣の酪農業　村本　達郎
關東西北部の渓口集落　矢島　仁吉
人口より見たる首都再建の基本課題　伊藤　博
畑作物商品化に伴う栽培地帶の變遷　菊地　利夫
鎌倉の都市的變遷（一）　野村　正七
茨城縣の果樹園藝地域の概觀　櫻井　明俊
社會地理二三（四月）
ドイツ地理學者シュウィンド博士の便り　大和英誠（譯）
戰後我國開拓地の營農實績　菊島驛八郎
内灘村の出稼ぎ現象について　金崎　肇
德島縣黑澤平坦面の土地利用　岸本　實
笹子峠の黑野田と駒飼　新井　浩
社會地理　二四號（五月）
孤島の農業—飛島と粟島の場合—　長井政太郎
黑島の生活　三友國五郎
壹岐島の觸集落　折茂　順平
大きな將來のある小さな島—オーストラリア西北の鐵鑛の島コッカトゥー島　ジョフ・テイラー　新井　浩（譯）
東京大學地理學研究　一（四月）
那須扇狀地農業地理（第二報）水田地域と畑地域との對比　松井　勇
日本農村の社會地理學的研究序說（富士川流域農村の地理學的研究）　横田　忠夫
瀨戸内多島海島嶼地理學方法論—地域論—　二神　弘
桂川谷地域の調査概報　木内　信藏
日本の資源・人口及び生活　園池　大樹
環境の基礎論と地理學における環境　西川　治

Werden und Vergehender Kontinente　Stille, H.
Die griechischen Seen　Fels, E.
Der Gardasee und sein Jahr　Lehmann, H.
Berliner Wirtschaftskarten Seifert, H.
Erich von Drygulski　Fels, E.
GEOGRAPHICAL REVIEW April 1950
Tall Oaks From Little Acorns
Glacier Fluctuation for Six Centuries in Southeastern Alaska and its Relations to Solar Activity.　Donald B. Lawrence
Climatic Types and the Variation of moisture Regions in Turkey. Siyri Ering
Ecological Observations on the Great Khingan Expedition. Kinji Imanish i
Ocean Currents in the Mar shall Islands. M. W. de Laubenfels.
Five Cities of the Gangetic Plain: A Cross Section of Indian Cultural History.
DIE ERDE Heft 1 1949.
Sechzig Jahre Eiszeitforschung　Penk, A.

O. H. K. Spate and Enayat Ahmed
Taking Stock in India and Pakistan : A Review　O. H. K. Spate
Contributions to Geographical knowledge of Canada since 1945
Andrew H. Clark
CANADIAN GEOGRAPHICAL JOURNAL February 1950
Arctic Nutrition　kare Rodahl
Bird Series Part V 2　W. V. Crich
Churchill, Manitoba, A naturalists' Rendezvous　M. Y. Williams
Zululand　Ken G. Coleman
The Saga of the Snow-Blower
Eric Cecil Lorris
The Cowichan Sweater
Myn Harrington
PAPERS OF THE MICHIGAN ACADEMY OF SCIENCE, ARTS, AND LETTERS, Past III GEOGRAPHY AND GEOLOGY, vol. XXXIII, 1947. published 1949.
Cooperative Effort of the State, Counties, and Municipalities in the Disposal of Tax-Reverted Lands in Northern Michigan
C. E. Millar and H. M. Galloway
Detroit's Expansion into the Umland and Related Recreational planning of the Huron-Clinton Metropolitan Authority　F. A. Stilgenbauer

考古學關係【著書】

先史世界への熱情　シュリーマン　村田數之亮譯（B6・二二〇頁・みすず書房　一六〇圓）
北九州古代文化圖鑑　第一輯（B5・圖版四〇枚解說書付　福岡縣高等學校教職員組合　六〇〇圓）
未開人の社會組織　鈴木二郎著（A5・二二三頁・世界書院　二七〇圓）
菊と刀—日本文化の型—　ルースベネディクト著　長谷川松治譯（B6・四六〇頁・社會思想研究會・二八〇圓）
民族　ルースベネディクト著　志村義雄譯（B6・二八一頁　北隆館　三〇〇圓）
日本傳說名彙　柳田國男監修（A5・四六八頁・日本放送出版協會編・四五〇圓）
佐賀縣史蹟名勝天然紀念物調査報告　第九輯　目達原古墳群調査報告（A5・一四〇頁　佐賀縣教育委員會）

【雜誌論文】

考古學雜誌　卅六ノ一（三月）
肥前唐津市發見甕棺遺物　梅原　末治
白陶の系譜　關野　雄
關東ローム層と先史時代遺物　多田　文男
前昭遠代の石窟（二）　島田　正郎
佛教藝術　七（五月）
佛像の禮拜と觀照　上野　照夫
佛像の起源に就いて　高田　修
中國に於ける佛像のはじまり　水野　清一
法華堂執金剛神像について　佐和　隆研
執金剛神像の錦文について　太田　英藏
法隆寺金堂藥師釋迦像光背の銘文について　藪田嘉一郎
佛所の分立とその名稱について　小林　剛
阿彌陀三尊佛の源流　樋口　隆康
密教藝術に關する西藏傳譯資料概觀　酒井　紫明

歷史評論　四ノ五（五月）　法隆寺問題の回顧　梅原　末治
法隆寺壁画を描くに要した顔料量の推定　山崎　一雄
繩文式文化について　江坂　輝彌
史迹と美術　二〇一號（三月）
本邦出土に係る唐式鏡の新資料　梅原末治
法隆寺舍利容器に就いての若干の考察　藪田嘉一郎
藥師寺吉祥天画像の再考　望月　信成

BULLETIN OF THE RAFFLES MUSEUM SERIES B No. 4. December, 1949.
R. J. BRAIDWOOD; Preflistoric MIEN, 1950 Chicago

エルベ線の歴史地理的意義

歐洲の社會經濟構造を東西に二分割しているエルベ線は、現在ベルリンをはさんで、歐洲に於ける「二つの世界」の政治的對立線でもある。

自然的には、ザール・エルベ河をつらねる線は、溫暖濕潤なる海洋的氣候下にある西歐と、氷結する北極洋や內海に注ぐ河川の貫流する大陸的氣候下にある東歐とを分つ線であり、地形的にも複雜にして分肢の多い西と單調な大陸塊をなす東とを區切る線である。

歷史的には、ライン河に沿う古いローマ境界を南下してローマをめざした神聖ローマ帝國初期の東境が、まずエルベ河の流域にほゞ限定されるのであり、中世初期以來オスト・エルベは、スラヴの占居するところであつたのは言うまでもない。中世後期以後のドイツの新しい開拓は、實にこのエルベ河を越えて東方針葉樹の原始林や沼澤地への植民であつた。これまた、エルベをはさんで、自然發生的な塊村と地條を施した開放耕地の存する西歐の景觀と鮮かなコントラストをなして、環村、街村、林隙村、沼澤村等の人爲的な集落とブロックフルールをなした特有の農村景觀がオスト・エルベに今なお影をとゞめている理由でもある。神聖ローマ帝國崩壞後、ナポレオンを推戴して、東西の緩衝地帶として成立したライン聯邦の東境及びウィーン會議の結果成立した東歐の神聖同盟の西境も、またこのゲルマンとスラヴの古きエルベの境界線と符號するのである。

抑ゝライン・ローマ軸とライン・ダニューヴ軸を中心として展開した歐洲史に於いて、オストエルベの諸地域は、かゝる両勢力の碎片地帶とでも云うべき機能を果したのである。

（水津一朗）

彙報

○京大史學科講義題目

——昭和廿五年度——

國史

講義　國史概說　小葉田教授
研究　十六・七世紀日華交渉史　小葉田教授
同　民族信仰の歴史的發展　柴田　教授
同　幕末史の諸問題　時野谷講師
同　日本思想史研究　家永　講師
同　律令國家の形成　横田　講師
演習　近世社會經濟史　小葉田教授
同　史料講讀（中・近世）　小葉田教授
同　史料講讀　柴田助教授
同　古文書學　赤松　講師

東洋史

講義　東洋史概說　第一部（中世）田村　教授
同　東洋史概說　第二部（近世）宮崎　教授
研究　唐代佛寺の社會的經濟的考察　那波　教授
同　中國古代社會（九月以降）　宮崎　教授
同　中世蒙古社會の研究　田村　教授
同　中世及び近世の中央アジア　羽田教授
同　清代の鹽法　佐伯助教授
同　六朝精神史　村上　講師
演習　唐宋民間文書　那波　教授
同　歴代金貨志　宮崎　教授
同　中國の土地所有制　田村　教授
同　陵餘叢考（九月以降）　佐伯助教授

西洋史

講義　西洋史概說　井上　教授
研究　ギリシヤ精神史　原　教授
同　アウグスチンの歴史觀　井上　教授
同　フランス革命研究史　前川助教授
演習　西洋史の諸問題　原　教授
同　ヨーロッパ成立期の諸問題　井上教授
同　近世史の諸問題　豊田助教授

人文地理

講義　人文地理學　織田助教授
同　自然地理學　松下　教授
研究　アメリカの人口及び農業　織田助教授
同　聚落地理學に關する諸問題　藤岡　教授
山岳地形　帷子　講師
經濟地理學　村松　講師
演習　支那地理書の研究　宮崎　教授
同　地圖學　織田助教授
同　日本の漁業　吉田　助手

考古學

講義　考古學概論　梅原　教授
研究　日本考古學の諸問題　梅原　教授
同　朝鮮史前の研究　有光　講師
同　ギリシアの壺　村田　講師
演習　金文關係中國書講讀　水野　教授
同　Casson; The Discovery of Man　有光　講師
同　考古學實習　小林　助手

史學研究法

講義　史學研究法　原　教授

○龍谷大學文學部卒業論文題目

（昭和廿四年度）

國史學專攻

近世佛教の一學說　安達　研
百姓一揆の一考察　武淳　信
淨土宗の開立と南都佛教　松田修三
中世における貨幣流通の一考察　岩城隆千代

福澤諭吉の思想と業績　梅高正行
桃山時代に於ける障壁畫について　大橋乘保
我國古代家族の研究　奥田信了
大悲菩薩覺盛傳研究　川井戒本
土一揆についての研究　神田眞悅
中世末期に於ける農村問題の一考察　岩田淨信
中世末期に於ける文化の地方的發展　白旗信孝
初期平安時代の精神傾向　戸田台淳
日本紀年論　中川俊一
歸化人に就いての一考察　早川隆英
日蓮の宗教運動についての一考察　藤善義諦
中世農民生活論考　古澤教眞
日本古代社會　古澤教雄
近江商人の一考察　若井寛
江戸中期における人形史考　和田豊弘

東洋史學專攻

漢帝國の成立過程　大庭修

佛教史學專攻

初期鎭西派の研究　佐藤昭賢
來邊藝術の發展過程　秋本貫成
室町佛教に於ける鎭西派の地位　桑岩豊龍
日本に於ける初期臨濟禪の性格　平住勉
日本上代末佛教の一考察　藤村大等
初期眞宗教團發展に關する一考察　水岡時成
北陸に於ける初期本願寺教團の發展　弓波眞憍

○龍谷大學史學關係講義題目

（昭和廿五年度）

佛教史學科

普通　印度佛教史　明石教授
同　中國佛教史　小笠原教授
同　日本佛教史　宮崎教授
特殊　佛教と庶民　秃氏講師
同　最近の親鸞研究に就いて　宮崎教授
同　白蓮宗教の研究　小笠原教授
講讀　中國僧の入竺記行　小川講師
同　吾妻鏡　淺井講師
同　往生要素　瓜生津講師
同　廣弘明集　小笠原教授

國史學科

普通　國史概說（前期）　宮崎教授
同　同　（後期）　魚澄講師
特殊　日鮮古文化の交流　末永講師
講讀　讀史餘論　黑羽講師

東洋史學科

普通　東洋史概說（前期）　石濱講師
同　同　（後期）　小笠原教授
特殊　中國歷朝の官吏と民政　那波講師
講讀　二十二史劄記　石濱講師
同　洛陽伽藍記　小笠原教授

共通副科目

史學概說　原講師
西洋史　井上講師
地理學　藤岡講師
文化人類學　棚瀨講師

○史學研究會彙報

四月二十二日午後一時より東都大學文學部第一教室で、本年度第一回例會を開いた。

「中國美術考古學の近況」　梅原末治

新入會員への研究手引の意味も兼ねて、戰後の各國に於ける學界活動に通じられた梅原教授を煩はし、中國考古學の研究法並びに各國の研究狀況を聽いた。教授は、先づ中國考古學の研究對象たる考古學的遺物が、極めて古い時代から、その美術品としての價値の故に骨董品として民間に藏せられ來つたものであるという特殊な性質を持つことよりして、

嚴密な考古學的研究の對象としては、近年行はれた考古學的發掘の成果と照合して、始めて嚴密な考古學的研究の對象としての價値を再現し得るのであつて、現在のように現地發掘の望み得ない狀況下に在つては、これ迄の考古學的成果を以て、之等の美術的遺品を考古學研究の對象とすることに、今後の我國考古學研究の進むべき一方向があることを强調され、以下瑞典・英國・佛蘭西・瑞西・ソ連・米國・中國の順にその該博な知識の一端を吐露せられ、聽者に大きな感銘を與へられた。同時に近着の各國考古學論著雜誌が展觀せられた。詳細は本誌第五號に揭載の豫定。

五月二十九日　午後一時半　於京都大學文學部第一教室

「老莊の自由思想」　村上嘉實氏

「福建人の海上活動と媽祖信仰の傳播」　小葉田惺氏

村上嘉實氏は、中國の膨大なる官僚組織の反面として大なる比重を持つ隱逸階級の指導原理として南者の奉ずる儒教倫理に對しその底流を成す老莊思想の地位を論述せられ、東洋思想の本質を成す自己否定を通して自由思想を論ぜられた。小葉田教授は、嘗て自ら從事せられた海南島の實地調査の結果に基き、海南島の沿岸は明清時代の移民に混つて元宋時代の移民の子孫であり、奥地に入ると大體明清時代の移民であり、福建人が大部分で、廣東人も相當あることを述べられ、海口その他の彼等の組織せる行（商人組合）の紐帶としての媽祖卽ち天妃神の歷史とその傳播を說かれた。

○京大國史關係

讀史會例會

四月廿八日（金）午後三時より國史專攻新入學生八名の歡迎會を百万遍龍見院に於て開催。小葉田教授、柴田助教授、赤松講師等先輩學生約二十名參會。

五月十三日（土）午後一時より史學科演習室に於て開催、左の研究發表あり。

上代日本の交通　三回生　蘭田香融君

古代から中世へ　宮川　滿氏

宮川氏の發表研究は本號に揭載

五月廿四日（水）午後三時より史學科第二教室に於て左の發表及び討論を行つた。その結果は本號に展望として揭載した。

中世史の二三の問題　井ケ田良治氏

なお國史研究室に於ては四月より從來から大學院學生を中心としてもつていた國史學會を讀史會に併合し、毎月第二土曜及び第四水曜を定例例會日として研究發表及び討論を行うことゝなつた。

○京大西洋史學關係

西洋史讀書會

昭和二十六年度第一回例會

五月十一日、於史學科演習室

一、Hastings Rashdell, The Universities of Europe in the Middle Ages.

鯖田　豊之

日本西洋史學會

第一回公開學術講演會

五月二十七日　於京大文學部一番教室

講師ならびに演題左の通り

一、海の文明と陸の文明

京大助教授　前川貞次郎

—ジャック・ピレンヌの世界史について—

一、歷史の再生　慶應大教授　間崎　万里

一、ヘロドトスについて　東大教授　村川堅太郎
一、デモクラシーと平等　東北大教授　山脇重雄
一、C. G. Carus と Historismus　廣島大教授　千代田謙
一、ドイツ近代歴史學の諸相　一橋大教授　上原專祿

○京大人文地理學關係

村松繁樹講師・新入生歓迎會。四月二十九日清風莊にて開催。

地理學談話會五月例會　五月二十日(土)地理學實習室にて開催。

オーストラリヤの人口動態　河地貫一
パキスタン　西村睦男

○京大考古學關係

福岡縣糸島郡銚子塚古墳の調査

日本考古學協會と福岡縣教育廳との協同調査による、福岡縣糸島郡一貴山村銚子塚古墳の發掘は、京大から小林行雄・高橋猪之介、縣から有光教一・森貞次郎等の諸氏が參加して、三月十四日から二十六日までの間に行はれた。

銚子塚古墳は肥前線一貴山驛の東北に近接せる前方後圓墳で、全長約一〇〇米あり、後圓部（高さ九米）の中央に長さ三・五米、幅一・五米、深さ〇・八米の栗石積みの竪穴式石室があつて、その内部から鏡十面（舶載鏡二、仿製鏡八）、勾玉二個、管玉三三個、刀劍十數口、鐵鏃などが檢出された。

本古墳出土の八面の仿製鏡中は三角緣神獸鏡の型式に屬する同笵鏡二種を含んでおり、その一種はかつて佐賀縣東松浦郡谷口古墳から發見されているものとも同型であることから、この地方において上代に仿製鏡の鑄造が行はれたことを想はせるものがある反面において、石室の構造や各種の副葬品から推論せられる古墳の年代觀が、四世紀後半より以前に遡らせて考へることは困難であろうと思はれる事實は、魏志倭人傳に見える怡土國・邪馬臺國の問題に關聯して、これが今後大いに研究せらるべき重要な古墳であることを示しているというべきであろう。なおこれらの遺物は目下京大考古學教室に保管して研究中である。

梅原教授山陽出張

岡山縣の考古學會成立記念講演のため四月十日より五日間にわたつて山陽方面へ出張せられた。

福岡縣浮羽郡裝飾古墳調査

同郡福富村西屋形に於て三基の裝飾古墳が發見されたが、樋口大學院特別研究生は福岡縣廳有光教一氏等と共に四月十日より三日間にわたつて調査を行つた。石室は既に破壞されていたが、壁畫はよく殘り、大形舟、鳥、人、物、盾等の外に月を表象したガマの繪を發見したのは、高勾麗古墳壁畫との近親性を示すものである。

有光講師着任　昭和六年京大考古學卒業後、朝鮮總督府博物館主任京城大講師、更に戰後は占領軍顧問として、永らく朝鮮で研究を續けられた有光教一氏が專任講師として本年四月着任され、「朝鮮史前の研究」を講義されることゝなつた。

○大谷大學史學關係

大谷大學佛教史學會

例會　二月九日　三時　於第八教室

卒業論文發表

六朝に於ける大乘戒思想の展開　山口眞哉
泉州に於ける行基創立寺院考　鈴木梁全

——特に久米多寺について——

淨土宗教團の發展とその政治關係小西三郎

越前に於ける眞宗教團の發展　益田義雄

出席者、日下・名畑兩教授・助手副手及び學生十名。發表に引續き、大谷派山科別院大廣間に於て七時より卒業生送別會を開催した。日下主任教授、卒業生四名を圍み學問と寺院生活等につき師弟互に相語り、和やかに盃を交し、別れを惜みつゝ九時三十分閉會した。

○大谷大學國史學會

本年度卒業論文左の如し。

地藏信仰について　伊藤曙覽

上代文化の一考察　大河內修

—奈良時代に於ける地方の佛教情況の研究—

室町時代の佛教界　大鹿義正

德川時代の上方町人　大橋　堯

律令時代の賤民に關する一考察岡村廣法

吉宗時代の日支交涉について　河野文曆

○人文科學研究所關係

人文科學講座（一般公開）　於人文科學研究所本館講堂　（自五月二十日至七月一日）——農村の諸問題——

五月二十日　「中國農村の分家制度」　內田智雄氏

五月廿七日「十八世紀のフランス農業」　河野健二氏

六月三日「華南農村社會の性格」　天野元之助氏

六月十日「中國における農耕上の協同について」　清水盛光氏

六月十七日　「日本農民のエコノミック・メンタリティー」　安達生恒氏

六月廿四日「英國資本主義と農村共同體」　田中　裕氏

七月一日「江戶時代の農業經營」　三橋時雄氏

○東方學術協會

京都例會　於京都大學人文科學研究所

二月七日　「石油の歷史」　大丸石油調査部　榛　葉義氏

三月十四日　「對馬神道」　大谷大學教授文學博士　三品彰英氏

大阪例會　於大阪倶樂部

四月二十六日　「不老長生」　藥學博士　木村康一氏

五月二十四日　「漢詩の鑑賞」　大阪市立大學教授　神田喜一郎氏

○東方學會

五月七日　於人文科學研究所

「論語の成立」　貝塚茂樹氏

「元遺山の詩說」　鈴木虎雄氏

○自然史學會　於人文科學研究所

第二十三回例會

「原始時代の生活」合評會

第二十四回例會

「靈長類の系譜」　德田御稔氏

第二十五回例會

「リオー群島の植物」　永井　進氏

第二十六回例會

御家船について　吉田敬市氏

會員消息

岡崎　敬氏　福岡市中央高校教官

橋崎彰一氏　名古屋大學文學部助手

近藤義郎氏　岡山大學醫學部解剖學助手